

2018年(平成30年)

12月6日

木曜日

経済8.9面
国際10.11面
金融情報14.15面
スポーツ16.17面
囲碁将棋18面/科学21面
地域22.23面
生活25面
文化文芸26面/小説26面
TVラジオ18.19.30面

朝日新聞大阪本社

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
電話:06-6231-0131 www.asahi.com



朝日新聞

2018年(平成30年)12月6日(木)

声 Voice

日本語学ぶ若者 感謝と敬意

日本語教師 三好 直美
(兵庫県 49)

日本語教師になり、明治から昭和の中国や台湾、朝鮮などアジアに強い政策を忘れないようにしている。今秋、この思いを日本語教師仲間と共有したいと勉強会を開いた。講師は高校の恩師。戦時資料を手に語り合った。先生の日本史授業は近現代史に力を入った内容で、毎回手書き文字がびっしり埋まるプリントには教科書に載っていない日本の加害史実などの状況が書かれていた。

卒業後は年賀状のやりとりくらいだったが、10年ほど前私が人生

の困難に直面したことを察し自宅に招いてくださった。泊まった部屋の本棚も押し入れも戦時資料でいっぱい。平和学習に役立てたいと、長年収集されていたのだ。それ以来、先生と資料館開設の夢を語りあうようになった。それが今、熊本県内の戦争遺産の調査や研究活動をする「ピースくまもと」(仮称)になって実ろうとしている。

戦時下の歴史を母国で学んできた中国や韓国などのアジアの若者たちが、それでも日本が大好きで日本語を選んで学びに来てくれて、いるという現実感謝し、敬意を持って接していきたいと思う。

読者ひろば

Readers' square

被爆体験継承
「ラペ」頑張れ

高谷和生 64

市民団体代表

(玉名市)

被爆体験を継承するノ
ーモアヒバクシャ集会に
参加した。ヒロシマ・ナ
ガサキの惨状を未来につ
なぐため、高校生平和大
使ほかによる活動報告の
ほか、山口県被爆二世の
会の寺中正樹さんの自主
制作で全国初の「被爆二
世健康手帳」の取り組み
や、戦後被害実相の語り
継ぎなど、心からの語り
に胸を打たれた。

また今年6月、高校生
平和大使や高校生1万人

署名活動OBらで結成さ
れた熊本発の学生団体
「La Paix(ラペ)」
の真摯な活動に目を見張
った。活動の柱としてい
る県内小中学校での長崎
など修学旅行の事前学習
は、自作のパネルシアタ
ー「ひなちゃんの夏の夢」
を通し、自主取材した証
言も取り入れ、子ども目
線でストーリーを展開さ
せている。実施した学校
では年齢が近い若者の活
動だけに、子どもたちの
関心も高かったという。

昨今、九州内の幾つか
の自治体で、戦争の記憶
を伝える戦争遺跡の「地
域おこし」への活用に向
け、興味関心を持たせた
いとの考えからキャラク
ターコスプレや戦跡キャ
ラクターの導入を図って
いる。ただそれは、若者
世代に対し、先の大戦へ
の加害・被害の歴史事実
に無関心であるとの決め
つけがあるのではなから
うか。

ラペの活動は被爆実相
に正面から向き合い、当
事者の痛みを想像させ、
平和を希求する10代の語
り部の活動である。今後
の若者世代間の平和学習
やワークショップ、SN
Sでの多様な発信により
活動が大きく広がる可能
性も秘めている。熊本の
若者の意識の高さに期待
したい。彼らの活動を非

力とさせないため、私た
ち市民団体でも支援の輪
を広げていきたい。そし
てエールを送りたい。頑
張れ、ラペ!

「読者ひろば」への投稿は400~600字。「主張・提言」に採用することもあります。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すことあります◇原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用です。掲載分には薄謝を送ります。

投稿される方へ

◇モノクロ作品募集 「私の一字」=好きな文字一字を書き、その理由も。「モノクロギャラリー」=イラスト、写真など、タイトルを付けて。はがき、封書、メールで年齢、職業も忘れて。作品は返却しません。おて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者ひろば」係②ファクス 096(363)1268③メール hiroba@kumanichi.co.jp

読者ひろば

Readers' square

平和への活動
若者にエール

三隅康資66無職

(熊本市)

久しぶりに高校生平和大使のみなさんの話を聞く機会に恵まれました。新老人の会主催の「戦争を語り継ぐ会」です。「高

校生・大学生の平和活動」がテーマで、いつもは高齢者がほとんどの会場は、女子高生や女子大生が7人も来てくれて、新鮮な空気の中で始まりました。

高校生署名活動サポーターで熊本被爆二世・三世の会会長の青木栄さん

の「熊本における平和大使の歩み」に続き、本年度の平和大使の二宮紗紀さん(熊本高2年)が、国連軍縮会議などの訪問先について報告。核兵器廃絶や平和な世界の実現を訴え、反核署名を届けることができ、国際連帯の礎を築くことができた

と収穫を語りました。

熊本における若者の平和活動の継続性については昨年、歴代の平和大使の会が発足し、今年も平和大使が母体になった学生団体「ラペ」(フランス語で「平和」の意味)が発足しました。代表の松本海空さんは第19代平和大使で熊本県立大1

サポートができたらと思っています。高校生平和大使と「ラペ」の活動に心からエールを送ります。

年。こうした組織は全国で初めてで、小中学校での出前授業を中心に活動中というものでした。

これまでの平和大使はほとんどが女子で、男子にどう広げていくかや、所属する学校・大学での取り組み、SNSでの発信などの課題があります。熊本の若者の平和活動は着実に進化・深化しているのを実感しました。「ラペ」には活動資金はなくカンパを募っています。いろんな面で私は